



鳥光委員長

セメント協会のセメント系固化材普及専門委員会は、セミナーや個別講習会などの活動を通してセメント系固化材の普及に大きな役割を果たしてきた。同委員会の活動状況などについて鳥光照雄委員長に聞いた。

#### ——セメント系固化材普及専門委員会の活動状況について。

**鳥光委員長** 当委員会は、セメント系固化材の広報・普及を目的にセメント系固化材技術専門委員会と連携しながらPR活動等を進めている。具体的な活動は、「PR」「ホームページ」「統計」および本年度より新たに立ち上げた「講習会検討」を担当する4つのワーキンググループを通して行っている。

PRワーキンググループは主に官公庁や地方自治体などの発注者を対象とした個別講習会を企画し、講演活動を行っている。同講習会は各機関の研修会のなかで講演機会を設けていただき、特に本年度は、当委員会活動の底辺を広げるため各地区の協会員が講師となり、セメント系固化材の概要やリクエストに応じたテーマで固化材の紹介を行っている。

直近では、2月14・15日、北海道建設部と北海道建設技術センターの共催による「平成18

## 試験法の実務講習会開く

セメント系固化材に代わる普及ツールに

年度北海道建設技術職員専門研修」において、道内の建設系技術職員を対象に「固化処理と環境対策」をテーマとした講演を行った。

また、昨年度に引き続き建設系の学生を対象とした学校関係の授業の中でも「セメント系固化材について」、「固化処理と環境対策」などをテーマに講演を行った。

さらに、2月8日と27日には、福岡と仙台でセメント協会主催による「技術セミナー」が開催され、「セメント系固化材を用いた地盤改良」と題してセメント系固化材技術専門委員長が講演を行った。本セミナーは、セメント・コンクリート技術の話題をテーマにセメント業界のシーズを紹介するものである。

ホームページ・ワーキンググループは、セメント協会のHPのリニューアルにあわせて、セメント系固化材のページを一新し充実をはかった。今後は、さらなるリニューアルの内容等を検討していく。

統計ワーキンググループはセメント系固化材の出荷量を集計し、昨年からは特殊土用固化材のデータも併せてホームページ上で公開している。現在、従来の集計作業に加え、需要動向の内容などをより掘り下げた分析を行うことについて議論を始めている。

講習会検討ワーキンググループは従来のセメント系固化材セミナーにかわる、普及ツールの検討をすすめ、昨年3月に改訂されたセメント協会標準試験方法「セメント系固化材による改良体の強さ試験方法」を題材に「固化材実務講習会」を企画・実施(11月22日)した。

本試験方法は、1990年に締固めを伴う安定処理土の試験方法として「セメント系固化材による安定処理土の試験方法」の名で制定された。その後、セメント系固化材による改良体は土木・建築構造物を支える地盤改良工法はもとより、種々の用途にも適用され確実な実績を積んでいる。今回の改訂は、本試験方法の更なる有用性を高めるため、現状行われている地盤工学会を初めとする改良体の試験方法を踏まえ、必要な部分を補完しながら、試験方法の規格の改正を行っている。実務講習会では、試験方法の理解や実践を目的として周知と普及の展開を図るべく実施した。

本年度の講習会は、協会員を対象とした試験的な開催であり、今後は、広く一般の方を対象とした講習会の開催についての検討を始めている。

——**需要動向については。**

**鳥光委員長** 06年度の出荷量の見込みは、過去最高となった昨年度の628万トンをさらに上

回ると言える。

需要の伸びは、戸建て住宅向け地盤改良が堅調な点や、民間の大型造成工事等でセメント系固化材が使用されるケースが多かったことも大きな要因と見られる。

また、HPで公開している統計からも解るように、特殊土用(六価クロム溶出低減型)固化材の需要増が堅調であり、特に、東海や関東地区での伸びがより明確になったと言える。

セメント系固化材がここまで実績を伸ばしているのは、六価クロムが溶出しやすい土質に対応する特殊土用固化材や、作業環境に配慮した発塵抑制型固化材など、各メーカーが様々なニーズに対応する形で新しい品種を販売してきたことが大きいと言える。

今後も当委員会および技術専門委員会はその活動を通して、各メーカーがそうした特殊な需要を認識し、それらに対応する品種の開発や新たな情報発信ができればと思っている。